



Photo by Fumio Hashimoto



Photo by Nishimipponshimbun Newspaper



Photo by Nishimipponshimbun Newspaper



Photo by Fumio Hashimoto

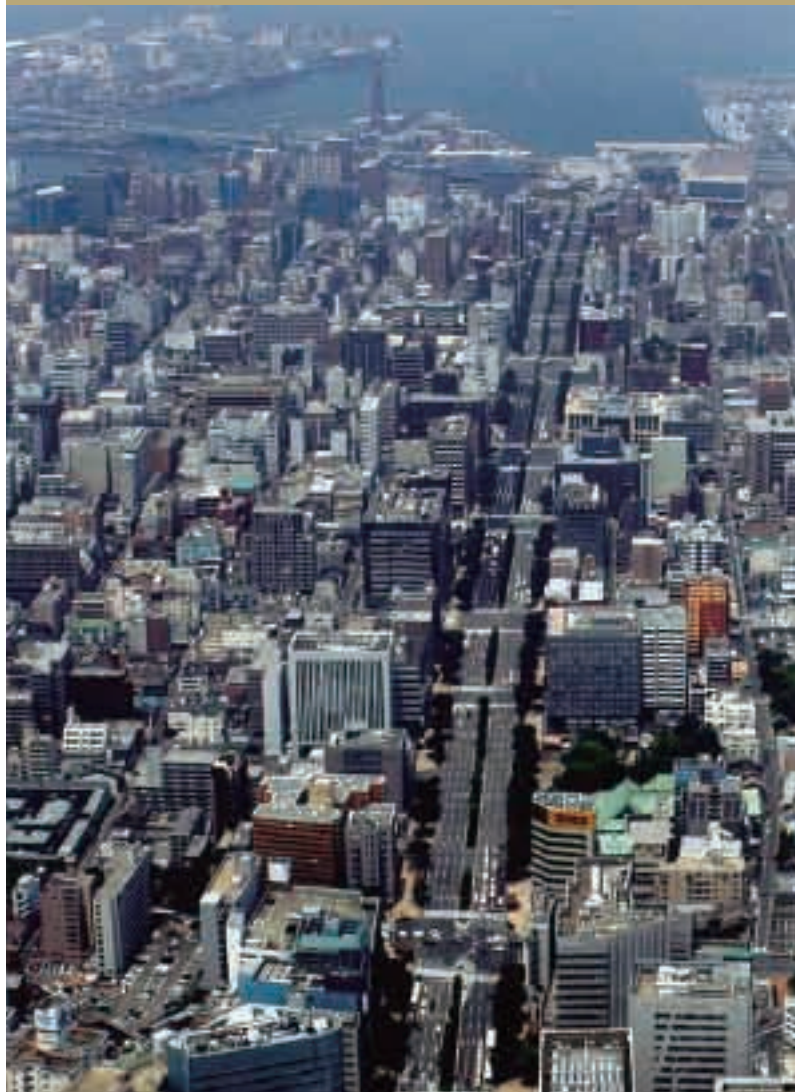


Photo by Nishimipponshimbun Newspaper

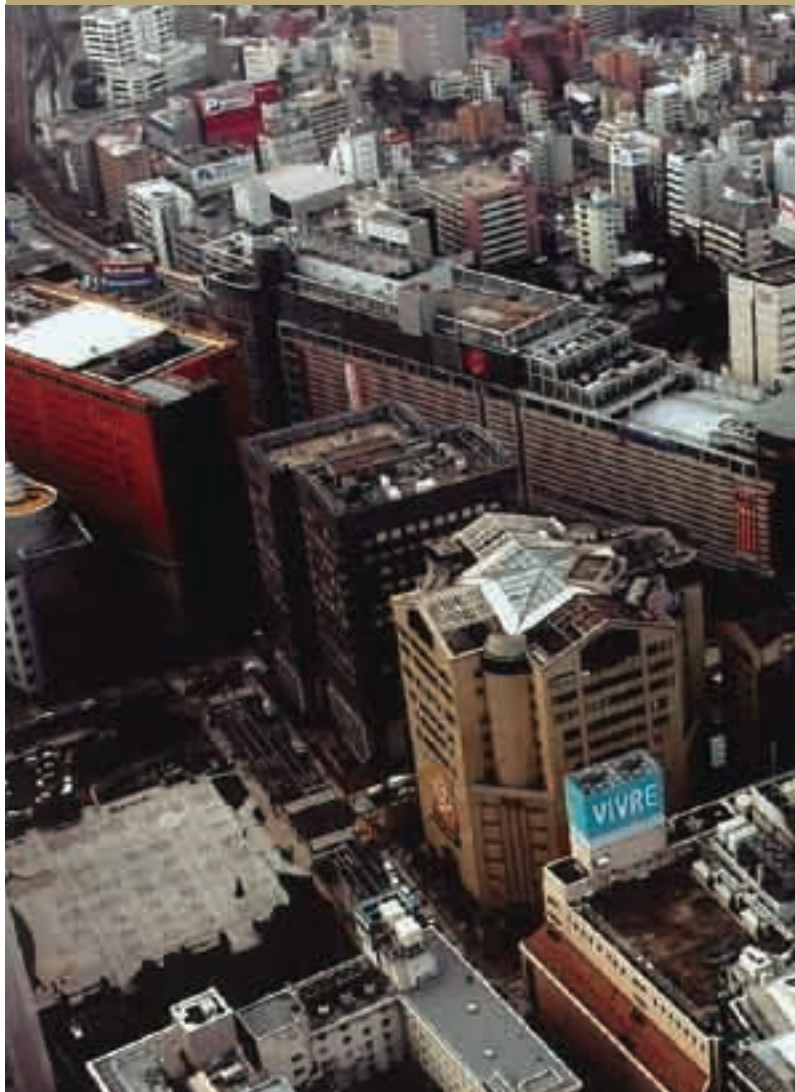


Photo by Nishimipponshimbun Newspaper

20年前も。これからも。
心を動かす景観があるまち。
ずっと住んでいたいと思う。また訪れたいと感じる。歴史や伝統が息づいていて、未来を感じる躍動感があって、あのまちも、このまちも、個性とやすらぎに満ちてている。それが、私たちのまち、福岡。いつまでも、その魅力を守り続けていきたいから。景観を一つのキーワードにしたまちづくりが、20年前も、今日も、変わることなく進められています。



◀ 1990年都市景観賞
ホテル イル・パラッツォ
中央区春吉3丁目13番1号

▼ 1990年都市景観賞
福岡市美術館の情景
中央区大濠公園1番6号



▲ 1988年都市景観賞
KBCビル広場
中央区長浜1丁目1番1号

1987年都市景観賞
福岡銀行本店
中央区天神2丁目13番1号 ▶



1987~1990



新しい時代の息吹が、ひとを元気に、まちを華やかに。

風格のある美しい
福岡市のまちづくりが、
本格的に動き始めた。

日本が高度経済成長長期から安定成長期に移行した1980年代。時代は昭和から平成へと代わり、まちづくりにおいても「効率性」「機能性」を重視する都市開発から「ゆ

とり」「潤い」といった豊かさを大切にする都市整備へと、その方向性には変化が求められてきました。このような時代背景の中で福岡市は1987年3月、個性を生かした都市景観の創造と保全を目指し、福岡市都市景観条例を制定。同年、景観形成に貢献した人々の努力を称えるとともに、市民の景観に対する認識を高めるため、福岡市都市景観賞も創設しました。対象となるのは、建築物や工作物、モニュメントなど（一般表彰）と、企画や活動など（特別表彰、1991年新設）で、いずれもすぐれた景観の創造、まちの魅力・活力の創出を評価し表彰しています。翌年には、景観形成のための施策を実施する上で指針となる都市景観形成基本計画を策定。以後、大規模建築物等の新築に際して助言・指導を行う「大規模建築物等の届け出および助言・指導」、主要な公共空間にパブリックアートとして屋外彫刻を設置することで「彫刻のあるまちづくり」といった具体的な施策が着々と進められ、「豊かな自然と悠久の歴史に培われた福岡市にふさわしいまちづくり」は本格的に動き始めました。



◀ ▼ 大規模建築物等の届け出および助言・指導
「黄色いビル」で有名な旧本店ビルに代わる新たなシンボルとして計画された天神愛眼メガネビル。福岡市のメインストリート・渡辺通りに面し、景観面で特段の配慮が必要なことから、建築の届け出に際してそのデザインや色彩、屋外広告物等についての助言・指導が行われました。関係者との半年以上にもおよぶ協議の結果「隣接する商業ビルとの調和」「天神地区にふさわしい風格の形成」を実現しました。



▲ 彫刻のあるまちづくり
「着衣の横たわる母と子」(写真、ヘンリー・ムーア作、博多駅前博多口広場)をはじめ、市内随所に国内外アーティストの作品を設置、芸術作品と気軽に触れ合える場を提供。設置に際しては周辺景観との調和など、魅力的な空間づくりに配慮しています。

◀ 大規模建築物等の届け出および助言・指導
東芝福岡ビル立体駐車場(中央区長浜)は壁面に環境絵画を採用、夜間にはライトアップを行い景観に配慮され、助言・指導の際の好例となっています。

年代別に見る福岡市の景観づくり

▼ 福岡市都市景観形成基本計画

福岡市都市景観条例に基づき作成された、文字どおり「景観形成のマスタープラン」。景観形成の意義、定義、方向性、展望などが明らかにされています。



1995年都市景観賞
海の中道海浜公園 マリンワールド海の中道
東区大字西戸崎18番28号



1995年都市景観賞 天神かっぱの泉(右)
中央区天神2丁目11番1号
1995年都市景観賞 キース・ヘリング彫刻(左)
中央区舞鶴2丁目5番1号 あいれふ



1993年都市景観賞(特別表彰)
ミュージアム・シティ・プロジェクト

1991年都市景観賞
福岡市博物館
早良区百道浜3丁目1番1号



1991~1995

ウォーターフロントを中心に、まちは潤い、美しく。



シーホークホテル&リゾート

海に開かれた まちづくりが福岡市の 新たな魅力を創り出す

「アジア太平洋博覧会」も大盛況の内に閉幕、国内外からの来客をもてなした経験を生かし、福岡市では新たな景観整備への施策が実現されていきました。たとえば「ライ

トアップ福岡」。公共施設を中心に、構造物、彫刻、街路樹、広場、公園といったスポットを、趣向を凝らした光で演出。多くの市民や来訪者に美しい夜のまちなみを楽しんでいただけでなく、都市の新たな魅力と活力を創る取り組みになりました。また1995年開催の「ユニバーシアード福岡大会」を契機に歩行者およびドライバーに公共公益施設を案内するための都市サイン整備も推進。「外国人や来訪者に分かりやすく親切なまちづくり」「乱立した案内板の整理統合と、すぐれたデザインによる洗練された道路景観形成」「外国語併記や絵文字を採用することによる情報のバリアフリー化と国際都市づくり」を目指しました。

また、これまでの福岡にはない新しい景観を備えた地区が出現しました。その一つが、未来型のビジネス街、ソフトリサーチパークや世界の建築家の競演による街並みなどが広がるシーサイドもち地区。さらには海の中道海浜公園もマリンワールド海の中道をはじめ各エリアの整備が進み、福岡市のウォーターフロントを中心に魅力的な景観が注目を集めました。

年代別に見る福岡市の景観づくり

▼情報誌等の発行

福岡市の景観の魅力について発見・再認識するきっかけとなるようなさまざまな情報を発信したり、都市景観室の事業やその方針や目標を報告するため、情報誌「彩都」をはじめとした各種冊子を制作・発行しています。



◀▶ライトアップ福岡

潮見櫓・大手門・福岡城石垣(写真上、中央区城内)や那の津往還(写真左、博多区石城町)をはじめ、福岡市文学館[赤煉瓦文化館](中央区天神1丁目)、舞鶴公園堀端桜並木(中央区城内)など、福岡市内の歴史的建造物や街路樹、彫刻などを中心にライトアップを行っています。



◀都市サイン整備

機能性とデザイン性、そして統一感を重視して整備された福岡市の都市サイン。自動車系サイン(写真下)には、オリジナルカラー「福岡ダークブルー」を採用。堂々とした見やすいデザインも特徴です。歩行者系サイン(写真上)は表示面にカラー陶板を、本体にはチタンや石材を採用。スムーズな案内誘導だけでなく洗練された景観形成にも一役買っています。



1997年都市景観賞
エルガーラ
中央区天神1丁目4番2号



1998年都市景観賞
天神西交差点歩道広場
中央区大名2丁目182-3番地先

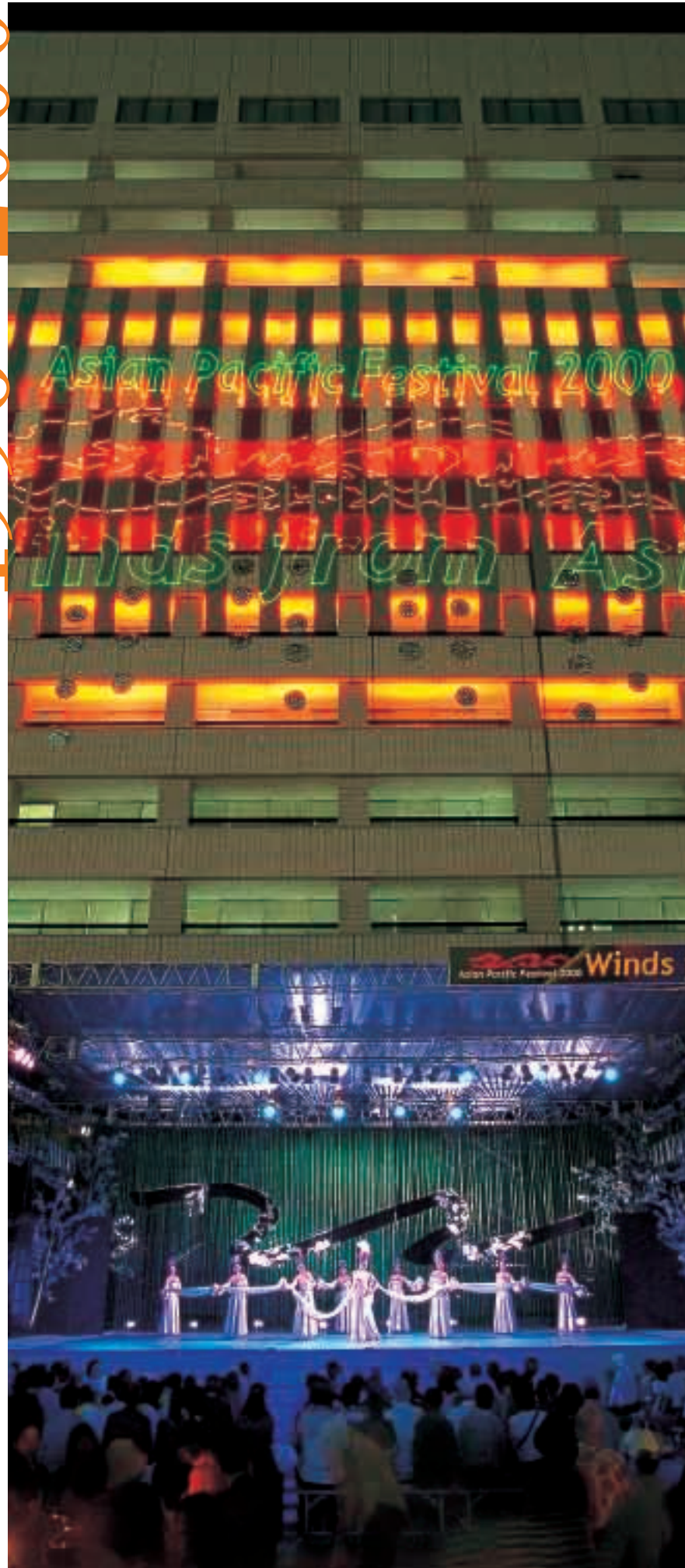
1996年都市景観賞
キャナルシティ博多
博多区住吉1丁目2番1号他



1998年都市景観賞
アクロス福岡
中央区天神1丁目1番1号



1996～2000



ひとが、文化が集い交流するまち。新世紀へ、そしてアジアの拠点へ。

アジアの交流拠点都市
として、魅力ある景観、
そして、まちを育むために。

景観に軸をおいたまちづくりへの
積極的な取り組みも開始から十年
の節目を迎えようとしていました。
その前年となった1996年4月、
福岡市は「都市景観形成地区指定

制度」を開始します。これは、景観
形成を重点的に図る地区を指定、
建築物の配置や色彩、デザイン、屋
外空間の緑化、広告物の規格など
について一定の基準を設け、地域
性や個性を生かした景観づくり・
整備を進めるというもので、副都
心地区、歴史・伝統地区、都心部や
その周辺地区などを主な対象地区
に定めています。さらにその指定
に際しては長期的視点に立って定
められ、まちづくりの担い手とも
いべき地域住民や企業の意見も
反映させるなど地域と行政の協働
による景観形成を目指しています。
第1号となったのは百道浜、地行
浜の両地区からなるシーサイドも
もち地区（1996年指定）でした。
ついで指定されたのが、御供所地
区（1998年指定）。ここでは、歴
史的な街並みを保全、修復するた
めの助成制度を設けるとともに、
地域にふさわしい道路などの環境
整備を進めています。さらに、
2000年には福岡市にとって「顔」
ともいえる天神地区（明治通り・渡
辺通り）が指定されました。アジア
にもっとも近い都市・福岡は、交流
拠点都市として美しいまちづくり
を進めています。

年代別に見る福岡市の景観づくり

▼都市景観形成地区「シーサイドもち」
まちづくりの過程や姿勢が高く評価されたシーサ
イドもち地区。1996年度都市景観大賞の「建設大臣賞」
都市景観100選を受賞。もちろん福岡市で初の受賞と
なりました。



▲都市景観形成地区「天神（渡辺通り・明治通り）」
天神地区には都市景観賞を受賞した建築物が充
実している一方、市民の安らぎの場が少ないこと
や屋外広告物に対する否定的な評価があるとい
った課題も存在。指定を機に、歩行者の視点を重
視し、都心にふさわしい風格や美しさ、活気やに
ぎわいを景観の目標とする一方、画一化したまちな
みにならないように考慮すること、屋外広告物掲
出のルールづくりなど、その価値を高めるための
新たな取り組みが進められています。



◀▼都市景観形成地区「御供所地区」
日本初の禅寺、聖福寺を中心に市内有数の寺町を
形成、都市景観形成基本計画の中でも、歴史・伝統
タイプの重点整備地区として位置付けられる御
供所地区。路地空間や短冊型敷地、町家、山笠の「流
れ」など、地区固有の財産として継承されてきた
歴史や文化を、指定を契機に、地域住民と寺社群
と行政が一体となって守り、長期的視点に立って
まちづくりに生かす活動が始まりました。



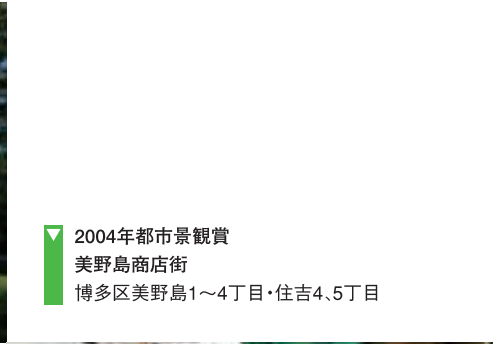
歴史的な街並み整備に対する助成制度
御供所地区においては、伝統的な街並みの整備・保全を
図るため、建築物や工作物に対する修景助成を行って
います。（写真上：聖福寺の博多堀）



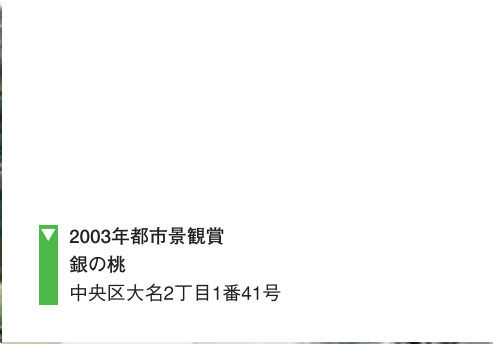
2000年アジアマンス



▲ 2005年都市景観賞
福岡工業大学
東区和白東3丁目30番1号



▲ 2004年都市景観賞
友泉亭公園
城南区友泉亭1番46号



▼ 2003年都市景観賞
銀の桃
中央区大名2丁目1番41号

市民の関心の高まりが、福岡市都市景観の未来を切り拓く。

21世紀に入り「心の時代」「環境の世紀」「スローライフ」といったキーワードに共感が集まるようになりました。景観賞の受賞作品もそんな時代を反映するものが目立ちます。また一方、「市民が主役のまちづくり」の一環として、法的な権限を付与された市民ボランティア「福岡市違反広告物追放登録員」が誕生。現在では約5800人にも上る市民が、違反広告物の撤去に参加しています。さらに、繁華街を抱える福岡市の地域特性に合わせた施策として、「福岡市ピンクちらし等の根絶に関する条例」を2004年に施行。現在ではピンクちらしも激減し、大きな成果を上げています。2006年3月には、まちのアクセントとして、まちを楽しくしていく目的でラッピングバスについての条例を緩和しました。見て楽しく、乗ってみたくなるデザインのバスの導入を進めています。一方、景観に対する次世代の興味や意識の向上を図るため、景観教育の充実にも着手。子どもたちが地域を実際に「探検」し、美しく住みやすいまちについて考える機会などを今後、積極的に取り入れていきます。なお、都市景観形成地区指定制度も順次進められ、2005年には、福岡市で4番目の指定地区として香椎副都心（千早）地区の整備を開始。副都心にふさわしい賑わいと風格のある景観形成を目指しています。



◀ ラッピングバス
市民が好感を持ち、まちににぎわいを与える質の高いデザインであること。この理想をもとに「全国一厳しいデザイン審査」を実施。新たな屋外広告の可能性を模索しています。（写真上：福岡市動植物園バス、下：We Love 天神協議会バス）

▼ 景観教育
次世代を担う子ども達が景観について学ぶことを目的に、小学校高学年向けの副読本を作成。身近な「学校」という題材からスタートし、自分たちの「まち」について考える機会を提供します。



▲ 違反広告物撤去活動
「自分たちのまちの環境や景観を自分たちの手で守りたい」と立ち上がった市民の皆さんを中心に、天神・大名周辺（写真）をはじめ、大橋、香椎、博多駅周辺、西新、姪浜駅北通り地区などで活動が進められています。

年代別に見る福岡市の景観づくり

▼ 都市景観形成地区指定制度[香椎副都心(千早)]
JRおよび西鉄千早駅周辺区域が対象で、電線地中化など公共施設を中心に、民有地等でもさまざまなルール等を設定。暮らしを楽しむ副都心を目指したまちづくりが進んでいます。



2001~2005

心を豊かにする景観。そこにあるのは、やさしさと福岡らしさ。



舞鶴公園の濠 写真：川上信也